

アトア

—岩手県民のてとてをつなぎ、環境の輪を広げるために—



◆100万人のキャンドルナイトinいわて2015—冬編—
2015年12月26日（土）、紫波町情報交流館（オガールプラザ内）
にて開催しました！



◆平成27年度岩手県愛鳥週間ポスターコンクール作品展
入賞作品をセンターの中で展示し、子どもたちの力作を
多くの方に見ていただきました。



今年の冬は雪が少なく、街中の道路は歩きやすい反面、雪を使った活動が満足にできない…という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。今後、気候変動の影響で、暖冬の状態が当たり前になる時がやって来るかもしれません。私たちにできることを実践し、岩手の環境を守りたいですね。



Index

○センター情報

- ・環境学習講座：三陸ジオパーク岩泉編 日本初の恐竜「モシリユ」から迎える地球の歴史
- ・訪問学習
- ・エコカーゴが行く～第20回～

○団体紹介

<盛岡市>松園子ども自然観察園をきれいにする会

○イベント報告・県内のイベント情報

○坂下洋子さんのドイツ通信Vol.2

◎環境学習講座

《三陸ジオパーク岩泉編》

日本初の恐竜「モシリユウ」から辿る地球の歴史

～ペーパークラフトで恐竜作成もします～

日時：12月26日（土）13：30～15：00

場所：環境学習交流センター

講師：竹花 敏明氏（岩泉観光ガイド協会 理事）

クラフト：熊谷 敏子氏（岩泉観光ガイド協会 ガイド）

今から37年前、日本で初めて恐竜の化石が岩手県の岩泉町で発見されました。地名の「茂師」からモシリユウと名づけられたこの化石の発見は、それまでの「日本で恐竜の化石は見つからない」という考えを一転するものとなりました（恐竜が生きていた時代、日本は大部分が海の底だった）。

モシリユウは竜脚類に分類され、草食性の巨大な恐竜だったそうです。モシリユウたち恐竜は、どのように進化し、なぜ絶滅してしまったのでしょうか？

ジュラ紀には植物の発達に伴い草食恐竜が大型化し、それを捕食する肉食恐竜も大型化しました。小型の獣脚類は現在の鳥類として生き残りましたが、体が大きく大量の植物を必要とする竜脚類は食糧の減少に対応できず絶滅したとの説があるそうです。

講師の竹花さんは「恐竜の絶滅は地球環境の変化にある。そのころはおよそ1千年に1種だった生物の絶滅は、今はおよそ13分に1種とも言われる。生き物が絶滅しないよう地球環境を守らなければならない」と訴えていました。

熊谷さんのペーパークラフト体験では、手先の器用な8歳の男の子が恐竜3体をあっという間に創り上げてしまいました。工作からしばらく遠ざかっていた大人も、小学生に混じってモシリユウのペーパークラフトを作成。ほのぼのとした雰囲気であんな楽しい時間を過ごすことが出来たようです。



エコカーゴが行く!

第20回

「日詰子ども教室 ECOを楽しもう!②」

出勤日：平成27年12月12日（土）

場所：紫波町中央公民館

内容：キューブびんキャンドルづくり、もてるかな?～エネルギーのかばん～、おんだんかクイズ、紙芝居「ハチドリの一とすく」、など



日詰子ども教室へエコカーゴでおじゃまするのは、夏に続いて2回目。キャンドルづくりや「もてるかな?」などの体験を通して、普段使っているエネルギーのことや地球温暖化対策について学習し、学校や家でできることは何かを考えて



もらうことがテーマでした。クリスマス前ということで、キャンドルづくりでは星形キャンドルをトッピング。世界に一つだけのキャンドルが出来上がりました。灯りをつけたり、水を出したり、料理をしたり、お風呂に入ったり…

と、暮らしの中で使われるエネルギーに気付いてもらえたのではないのでしょうか。「もてるかな?」やクイズでは正解・不正解に関わらず、子どもたちからいろいろな答えが出てきて盛り上がりました。最後に紙芝居「ハチドリの一とすく」を読み、一人ひとりができること（＝「ひとすく」）をしずく型の用紙に書いてもらいました。その後、何人かに発表してもらい、学習会のまとめとなりました。

小学校で温暖化の学習をしている高学年の子どもたちだけでなく、低学年の子たちもたくさん参加してくれました。最後はみんなで作品を持って記念撮影。小さなひとすくを集めて大きなしずくとなるよう、今後もお手伝いできたらと思います。

訪問学習

今年度、センターには20団体以上の訪問があり、子どもから大人まで幅広い年代にご利用いただきました。環境学習交流センターが入居しているいわて県民情報交流センター（アイーナ）の施設見学や、岩手県立図書館の見学と組み合わせで訪問していただくこともあり、人数や時間に合わせて、様々な形で受入れをしています。ここでは、一部ですが学習会の様子をご紹介します。

◆滝沢市立鶉飼小学校2年生

(訪問日：9月29日)

鶉飼小学校2年生の皆さんは全員で約180名。5グループに分かれていただき、20分ずつの訪問となりました。環境紙芝居とセンターの見学を実施しましたが、全員が体験するためには、滞在時間が少し短めだったこともあり、「また来たい」という声が出ていました。ぜひ遊びに来てくださいね！



◆北上市立江釣子中学校2年生

(訪問日：10月9日)

アイーナに近い盛岡市近郊のご利用が多いのですが、北上市から来ていただいた江釣子中学校の皆さん。3グループに分かれ、センターでの学習と、地球温暖化防止活動推進員さんによる講話、アイーナ見学とを交互に体験していただきました。推進員さんのお話を聞くことで、地球温暖化など環境問題について、より理解も深まったのではないのでしょうか。



○訪問学習について

- ・原則、受付は先着順です。イベント開催日やその準備期間はお断りさせていただく場合がございます。
- ・安全面から人数制限を設けております。調整が難しい場合も受入れが出来かねる場合がございます。
- ・事前に環境学習交流センターまでお問い合わせの上、遅くとも訪問日の2週間前までにご予約ください。
- ・詳細は環境学習交流センターのホームページから「訪問学習」をご覧ください。



その他、こんなところにも行きました！

- 炎の匠展2015（北上市）
出動日：9月19日（土）・20日（日）
- 盛岡・紫波地区環境施設組合 清掃センター環境まつり（矢巾町）
出動日：9月27日（日）
- きたかみ・かねがさき テクノメッセ2015（北上市）
出動日：10月2日（金）
- 第21回宮古市産業まつり（宮古市）
出動日：10月3日（土）・4日（日）
- 岩手県環境保健研究センター・一般公開（盛岡市）
出動日：10月10日（土）
- 岩手流通センター生き生き祭（矢巾町）
出動日：10月11日（日）
- ぼかぼか放課後クラブ体験学習（一関市）
出動日：10月15日（木）
- 森林総合研究所一般公開「森を知る」（盛岡市）
出動日：10月17日（土）
- しずくいし産業まつり2015（雫石町）
出動日：10月24日（土）・25日（日）
- ていたんそエコクッキング講座
「地産地消豆腐ドーナツ 使った油は、燃料に！」
（大船渡市）
出動日：11月26日（木）
- 中野町にこにこ子供会 冬休み子供会行事（北上市）
出動日：12月19日（土）
- 平成28年生活衛生業者のための衛生管理セミナー
（大船渡市）
出動日：2月22日（月）
- カシオペア環境フェスティバル（二戸市）
出動日：2月27日（土）

今年度もエコカーゴで県内各地を回ることができました。本当にありがとうございました。またのご利用をお待ちしております！

※出張環境学習会（エコカーゴ）ご利用の際は、事前に環境学習交流センターまで日時・内容についてお問合せの上、開催日の1ヶ月前までにお申込みください。

団体紹介

『松園子ども自然観察園をきれいにする会』(盛岡市)

松園子ども自然観察園をきれいにする会は、1988年に「子ども自然公園をきれいにする会」という名称で発足しました。最初は、この場所にゴルフ練習場を造らずに子どもの自然公園として残してほしいという思いから活動は始まりました。自然観察会、署名活動、募金活動を進める中で、2000年に当会の運動により盛岡市の管理する自然観察園にすることができました。

今は、子どもたちに身近な自然を感じてもらいたいという当初の思いを繋げていきたいと、年6回の自然観察会や、園内整備を行っています。園内整備には、国土交通省北上川ダム統合管理事務所、盛岡市環境企画課のお力添えを頂いています。



観察会の内容は下記のとおりです。

- 5月 サクラソウの観察
- 6月 虫と蝶の観察
- 7月 ホタルの観察
- 10月 鳴く虫と赤とんぼの観察
- 12月 クズの蔓を使ったリースと籠作り
- 2月 アイスクリーム作り

毎回、30名ほどの方が参加しており、ホタルの観察会には100名を超える方が参加することもあります。ホタルを見たことがないという子どもたちや、最近見ていないなあという大人の方たちも暗闇に光るホタルに歓声を上げています。皆さんも是非、ミズバショウ、サクラソウそしてホタルに会いに松園にお出かけください。参加、大歓迎です。



問い合わせ先 池田貞子 TEL 019-662-4080

無料水彩画サークル 「エコ×アート」 作品展開催中です!

環境学習交流センターで主催している、無料水彩画サークル「エコ×アート」は、2012年4月から活動を開始し、まもなく4年となります。現在では27名の会員が火曜・金曜の週2回活動しており、私と同じ沿岸出身の仲間たちも半数ほどの割合で加わり、毎週笑顔で集まって楽しんでいます。

赤・青・黄の「三原色」から色を作り出すという基本を学び、その後は、個々それぞれの自由な画法を試しながら、最終的には自分に一番合った水彩画の描き方を見つけ、のびのびと作品を描いていくというのが「エコ×アート」サークルの特徴の一つです。

そして、印刷会社からいただいた厚紙の切れ端も画材として再利用し、時には使い終わった牛乳パックをパレットに使ってみたりと、リサイクルの実践もしています。

季節の草花をモデルにするときには、

自然の野草をじっくりと見ながら慎重に描いていくので観察力も徐々に高まり、モデル探しを続けているうちに、四季の移り変わりにもより一層敏感になって感受性が強くなっていきます。

アイーナ5階の環境学習交流センターをアトリエ代わりに使って、作品を描いていくのですが、中には、自宅で何十枚もの作品を描いてくる熱心な会員もいます。

11月からは、新たに7名の新規会員が加わり、ますます賑やかになってきました。2月から3月末まで、「エコ×アート」作品展を開催します。三原色から色を作りだし、心を込めて一生懸命塗り重ね、描き上げた作品の数々を、ご来場の皆様にご覧いただければと思います。

エコ×アート代表
山田町出身 光(ひかる)



「いわて水と緑の交流フォーラム」が開催されました！

日時：平成28年1月30日（土） 13：00～15：30

会場：いわて県民情報交流センター（アイーナ） 8階 会議室804A

【当日プログラム】

- 13：00 岩手県環境保全活動表彰
水と緑を守り育てる活動知事感謝状贈呈
- 13：30 活動事例発表
○安代中学校学校林「ふれあいの森」管理委員会（八幡平市）
○葛巻町立小屋瀬中学校（葛巻町）
○一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校（釜石市）
- 14：30 パネルディスカッション
○さんりくESD関伊川大学校 水木 高志 氏
○岩手県環境アドバイザー 加藤 直子 氏
○一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校 伊藤 聡 氏
○環境学習交流センター 石川 明穂 氏
コーディネーター：内田 尚宏 氏（岩手県環境アドバイザー）



このフォーラムは、県内の森・川・海をフィールドとして活動している団体や、岩手県環境アドバイザーなど、参加者が意見交換をしながら、いわての豊かな自然を守り育てるための活動を継続していくためのヒントを見つけることを目的として開催されています。また、日頃より環境保全活動に取り組まれている方々の表彰や感謝状贈呈を通して、活動の一層の促進を図ることを目的としています。

中学生の皆さんによる事例発表は、明確な目的を持ち、問題点などを分析しながら研究・実践している様子が伝わる、堂々としたものでした。地域の方々にも支えられ、継続していこうという気持ちが伝わってきました。三陸ひとつなぎ自然学校の伊藤さんからは、震災以降に子どもたちが自然の中で思い切り遊べる居場所づくりを通して始まった活動が、今では釜石市に関わる人々のコーディネートへと発展し、継続されていることをお聞きすることができました。子どもたちの生き生きとした笑顔が印象的でした。

パネルディスカッションでは、地域（流域）の活動を継続していくために、子どもの頃の実体験を大切にしたいという話がありました。地域の自然との付き合い方・触れ合い方が身に付いていると、地域への愛着も生まれ、ひいては生きる力にもなるのだということが示されたのではないのでしょうか。

そのための支援策の一つとして、環境アドバイザー派遣など、環境学習交流センターの事業も利用していただければと思います。



県内のイベント情報

○イベントの詳細については、それぞれの主催団体へお問合せください。

①網張高原スノーハイク （スノーシューハイキング）

【日 時】 3月21日（月）
9：00～14：00
【集合場所】 網張ビジターセンター
【参加料】 大人500円 小学生300円
【定 員】 20名

②根開きのブナの森で春を探そう

【日 時】 4月3日（日）
9：00～14：00
【集合場所】 網張ビジターセンター
【参加料】 大人500円 小学生300円
（材料費込）
【定 員】 10名

③エコクラフト教室

【日 時】 3月19日（土）
9：00～15：00
（開始15分前に集合）
【集合場所】 森林ふれあい学習館フォレストアイ
【参加費】 1,500円
【内 容】 紙ひもを使って、初めての方でも簡単に作れる小物入れを作ろう

【①～②問合せ】
網張ビジターセンター
TEL：019-693-3777
FAX：019-693-3778

【③問合せ】
森林ふれあい学習館フォレストアイ
TEL：0195-78-2092

イベント情報をお寄せください！

環境関連イベントやセミナー等の情報をお持ちの方は、環境学習交流センターまでお知らせください。ホームページ等でご紹介する他、チラシやポスターを送付・持参いただいた場合には館内で掲示させていただいております。

坂下洋子さんの ドイツ通信

Vol.2

ドイツは世界有数の車が普通に走る国。ベンツもBMWもアウディも、そして時折見かけるボルシェも…。これらの車は日本では外車と呼ばれ、私にとっては高級車としてのイメージしかなく、自分たちには縁のない車として捉えてきました。でもこちらに住



フランクフルト市内で見かけるドイツ車

んでいると国産車、よく目にする車です。このように身近な車として関心を持つことで、車を大切に長く乗るといった国民意識が見えてきました。

ドイツに来る前、我が家の車は走行距離が25万キロを超えても快適に乗り、それをすごいものだとして自画自賛しておりましたが、ドイツの車は走行距離が30万キロ～40万キロ乗るのは当たり前です。それどころか主人がある時乗車したタクシーが90万キロを超えており、驚いた様子を見せ、タクシーの運転手曰く「100万キロ乗っている仲間もいる」との声が返ってきたそうです。このように日本とは桁が違います。

この背景のひとつには、古い車種が故障しても、車の部品が手に入る仕組みが整っている…つまり古い部品が廃盤にならずに取り寄せ可能なケースが多いということがあると思います。また、日本車は短期的には故障が少ない代わりに寿命が短く、ドイツ車は日本車に比べ故障は多いものの寿命は長いと言われています。どちらを選ぶかはそれぞれの価値観ですが、ものを大切に長く使うという環境の視点からはドイツ車に分がある気がします。

ドイツのものを大切に使う文化はいたるところで目にします。例えば近くの大型ショッピングモール。ここもクリスマスの時期になるとクリスマスの装飾がなされますが、少なくともここ3年は、年毎に新しいものが飾られるのではなく、前年度に飾られたものを繰り返し使用していたよ



フランクフルトのクリスマスマーケット
(クリスマスマーケットのことをドイツ語でWeihnachtsmarkt: ヴァイナハツマルクトと言います)

うです。近くのショッピングモールに限らず、ドイツで有名なクリスマスマーケットの多くの場所でも大小含めた装飾を、何年も繰り返し使っているように見えます。何年も同じものなのに、飽きることなく、逆に「その季節がきた」というノスタルジックな気分さえあります。毎年新鮮さを求めて、新しいものに取り換える“素敵”も良いのですが、変わらずそこにある、という文化の中にも“素敵”は発見できると感じています。

繰り返しになりますが、大切に長く利用することは、とても環境に優しい姿です。つまるところ、消費経済から抜け出すことがエネルギーの消費削減に大きな役割を果たします。そのことで、経済が回らなくなるという人がいますが、消費を少なくしても経済は回るという事例は、いくらでもあります。要はものを消費、いわゆる廃棄するのではなく、今あるものに手を加えたり、創造性を駆使して利用したり、人間が機械に代わってサービスする仕組みで経済効果を考えたりという視点が必要なのだと思います。

確かに効率重視だと機械には太刀打ちできないのですが、そもそも何のための効率か?を考えた時、“ゆっくり”のメリットが見えてきます。前回の「てとて」でも、休日をしっかりと取るドイツの姿をお伝えしましたが、生産効率を数値的に比較した場合、休日をしっかりと



ハイデルベルクのクリスマスマーケット

り取り勤務時間の少ないドイツの方が、日本のそれより高いのだそうです。また、「休む時はしっかりと休み、働くときはしっかりと働くと、見えなかったものが見えてくる。」このことも脳科学者の見地からも言えるのだそうです。こうしてみると、なぜそんなに急ぐのか、効率を重視するのか…の再考の必要がありそうです。

ドイツの大手スーパーやデパートの惣菜売り場では、肉、魚、チーズなどかなり対面式の売り方が取り入れられています。パックに詰められた食材を効率よく購入できるのも便利ですが、その対面式のふれあいの中で、笑顔を頂くお客さま(私も含め)の姿が数多く存在します。これもこの国の素敵さに思えます。

とは言え、インターネットやiPhoneの普及、また質より量を求める人や文化の流入によって変化の兆し?と感ずることもあります。価値観が多様化する中で、これが絶対と言えない世の中になってきていますが、世界共通の大切な問題である環境問題を意識したとき、ものを大切にしていける文化は、永遠のものであってほしいと願っています。

◆ 坂下洋子さんプロフィール ◆

金石市出身。環境アドバイザー・岩手県地球温暖化防止活動推進員としても広く活動され、現在は、ドイツ・フランクフルト在住。

● 「いわて環境情報板」更新中です！ ●

岩手県や県内自治体の環境情報、イベント情報、助成金情報などを中心にお伝えします。

環境という広範囲な話題を、皆さんにとって身近に感じられるよう、その時々タイムリーな情報と切り口でお届けします。毎月更新していきますので、お楽しみに！

「いわて環境情報板」：<http://www.iwate-eco.jp/know/mailmag.html>

センター通信 スタッフのつぶやき

今年、「いわて県民情報交流センター(アイーナ)」が10周年を迎えます。環境学習交流センターが開館して10年経ったのだなあ振り返ると同時に、これからの10年を考えながら活動する年となりそうです。

発行 環境学習交流センター

〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1-7-1 アイーナ5F
TEL:019-606-1752 FAX:019-606-1753

[E-mail] eco@aina.jp

[Website] <http://www.aina.jp/environment/>

[Blog] <http://blog.iwate-eco.jp/>

[Twitter] http://twitter.com/iwate_eco

[Facebook] <https://www.facebook.com/iwate.eco>

◎環境学習交流センターは、特定非営利活動法人環境パートナーシップいわてが岩手県から委託を受けて運営しております。